

あなたのスキルは社会に役立つ

2011年3月11日の東日本大震災発生直後に発足したHack For Japanと「市民が主体となって自分たちの街の課題を技術で解決するコミュニティ作り支援」を掲げるCode for Japanのメンバーから、防災や減災、地域の活性化や課題解決、そして人材育成など、「エンジニアができる社会貢献」をテーマにした記事をお届けします。

第104回

オンラインでさらに広がるシニアプログラミングネットワーク!

● Hack For Japan スタッフ

小泉 勝志郎 (Katsushiro Koizumi) [Twitter](#) @koi_zoom1

シニアプログラミング ネットワークの紹介

Apple CEOからWWDCに呼ばれ、国連でもスピーチした最高齢アプリ開発者の若宮正子さん。この若宮正子さんに自らアプリを開発するようにそそのかして、実際にプログラミング教育をしたのが筆者の小泉です。高齢者が自らプログラミングを組むからこその、高齢者が不便に思うことや楽しいと感じることを知るため、プログラミングに親しむ高齢者(シニア)のみなさんを増やしたいと思いました。そうして立ち上げたコミュニティがシニアプログラミングネットワーク^{注1}です。

シニアプログラミングネットワークについては、本連載では2017年4月の立ち上げ当初^{注2}から紹介し、キックオフイベントやシニアプログラミングハッカソンについて取り上げてきました。現在は大きく活動範囲を広げ、渋谷、仙台、大阪、愛知の4拠点で活動中です。

各会場とも毎月、シニアプログラミングもくもく会^{注3}を開催していました。同イベントは初心者が多いため、お互い教え合う場面が多く、もくもく会と言いつつかなりにぎやかな会です。シニアであってもなくても、初心者でも熟練者でも参加できます。

ただ、現在はCOVID-19(新型コロナウイルス)

の影響でオフラインイベントは開催が難しくなっています。そこでシニアプログラミングネットワークでは、オンラインイベントを行っています。今回はそのオンラインイベントの話が中心です。

シニアプログラミング報告会

シニアプログラミングもくもく会の実施可否については、シニアプログラミングネットワークの4拠点(渋谷、仙台、大阪、愛知)でそれぞれ決めてもらっていましたが、会場の都合もあるためオフライン開催はどんどん減っていき、ついに4月には全拠点でオフラインのイベントがなくなってしまいました。そこでとりあえずオンラインで集まってみようと4月30日に開催したのが「シニアプログラミング報告会」です。

実は参加者から「報告会」を企画してほしいとは前から言われていました。今までのシニアプログラミングもくもく会を始めた時の勉強会でアプリなどを製作しても、それを発表する機会がなかったのです。ただ、単一拠点だと発表者数が十分に集まらず、かといって拠点をまたぐとなると旅費をどう工面するかだけでもたいへんで、なかなか実現できていませんでした。ですので、新型コロナウイルスでオンラインイベントを行おうとなったときに、真っ先に浮かんできたのが成果発表会だったのです。オンラインなら距離の壁を乗り越えられますからね。

そして、シニアプログラミング報告会を開催したところ、なんと35名の方が参加してくれまし

注1 <https://senior-programming.net>

注2 本誌で初めて掲載されたのは2017年9月号、連載第69回的时候了。

注3 <https://techplay.jp/community/SeniorProgramming>

た! ツールにはZoomを使いました。内容は前半を成果発表、後半を参加者全員でのディスカッションとしました。



成果発表

シニアプログラミング報告会前半の成果発表について、4名の参加者の方をピックアップして紹介します。発表は4拠点それぞれで行われ、多様性に富んだ内容となっていました。

鈴木富司さん

鈴木富司さん(写真1)は報告会前日が誕生日で、なんと85歳に! シニアプログラミングネットワークの中でも最年長です。

富司さんはすでに7本ものアプリをリリースされており、その経験もふまえて昨年なんと84歳にして技術同人誌を発表されています。そのタイトルが『84歳、トミ爺。60歳からプログラミングを目指す若者に、トミ爺が語る知識と知恵』^{注4}というもの。60歳を若者と言えるのは富司さんならではのですね。

内容はiPhoneアプリ開発ですので扱っている言語もSwiftですが、Swiftをやっていないプログラミング入門者にもぜひ読んでほしい内容です。というのも、これまでのプログラミング入門書があまり触

注4 富司さんの同人誌は次のURLから購入できます。
<https://tomzy.booth.pm>

▼写真1 鈴木富司さん



れていないところにフォーカスしており、プログラミングを始める前に知っておくべきことの記述が多くあるのです。ほかにも、プログラミング入門書にあまり出てこない内容として、広告を設定することでの収益化のやり方も説明されています。当然、シニアがプログラミングをするうえでの工夫も豊富に書かれています。

富司さんからの発表はそれだけではなく、新作同人誌『84歳、トミ爺。Swift UIを試した、凄い、おもしろい!! トミ爺の挑戦でわかったこと』の発表も行われました。iOS向けの新しいUIフレームワークであるSwift UIについて書かれた入門書です。

85歳になっても最新技術動向を追いかける富司さんは、現在もiOSアプリ開発を継続中です。今後の活躍にも期待ですね!

能明彦さん

藤沢市にお住まいの能明彦さん(写真2)はScratchにハマっていることを発表。能さんは現在77歳。「江ノ島のドクターノオ」を名乗り、ScratchのIDも「enoshima007」。ドクターノオとは映画007シリーズのキャラクターの名前です。

能さんの成果報告は、自作のScratchプログラム「わらいよが」^{注5}のデモからスタート。マイク入力を

注5 <https://scratch.mit.edu/projects/217835559/>

▼写真2 「わらいよが」のデモ画面を紹介する能明彦さん



受け付け、声の大きさに応じて画面中央の笑顔マークが大きくなるというプログラムです。能さんの「わーはっはっ！」という大声が響く発表はインパクト絶大でした。発表はそれだけではなく、複雑なことを学ばなくてもプログラミングできるScratchはシニアに向いていると、Scratchの啓蒙に取り組んでいることをお話しされました。

大嶋孝造さん

大阪支部長である大嶋孝造さん(写真3)からは、大阪支部についてのお話がありました。ヤフー株式会社大阪支社のバックアップを受け、会場だけではなく教える面でも多大なサポートを受けていること、大阪支部独自の取り組みとしてショートスピーチから始めるようにしていることが語られました。

実は大嶋さん、もとは渋谷もくもく会の常連。ご自身も「複利計算」というアプリを開発されています。大嶋さんがご実家のある大阪に引っ越すとなったときに「それならば大阪支部を立ち上げませんか？」と筆者から提案して実際に立ち上がったのです。

実は大阪拠点は渋谷拠点以上に人数が集まっている活発なところでしたが、現在は新型コロナウイルスの影響でイベントができていません。再開した際には今まで以上に活発な姿になることでしょう。

▼写真3 大嶋孝造さん



吉岡三善さん

愛知拠点の吉岡さん(写真4)の発表では、普段のもくもく会でやっていたこと、そして他会場に先駆けて2月からオンラインもくもく会にしていたことが語られました。愛知拠点で開催しているもくもく会では、プログラミングを黙々とするよりも自宅で開発した成果を発表するほうにウエイトを置いているとのこと。オンライン開催になってから、それまでの参加者が減ってはいるものの、ハードウェア中心のシニアプログラミングイベントということで独自色はかなり出ていることが語られました。



ディスカッション

報告会の後半では、成果発表への質疑応答も交えて参加者全員でのディスカッションをしようとしたのですが、35名も参加者がいたのもあってほとんど自己紹介で終わってしまいました。とはいえ、この自己紹介の中からも新しい交流が生まれました。

シニアプログラミング もくもく会オンライン版

5月27日にはシニアプログラミングもくもく会オンライン版をZoomで開催しました。こちらも30名ほどの参加者が来てくれました。参加者の中に

▼写真4 吉岡三善さん



は、渋谷、仙台、大阪、愛知といった主要な拠点以外の地域からも参加してくれた方もいました。今までシニアプログラミングネットワークの拠点が地元になかったけれど、オンライン開催なら参加できるということでした。現在全国に4拠点を構えていますが、新型コロナウイルスが収束すれば拠点数がさらに増える期待が持てそうです。

また、今まで常連だった方でしばらく参加していなかった方が久々に参加されていました。自宅から離れるのが難しく参加できなかったが、オンラインなら参加できるという方もいました。そのような状況も考慮して、新型コロナウイルスが収束してもオンラインでの開催は継続していくことにしました。

ところで、シニアプログラミングもくもく会は何の技術を勉強するかの制約をとくに設けていないので、みなさんやっていることがバラバラです。今回は参加者数も多いので、Zoomのブレイクアウトルーム機能を用いてSwift、Scratchなど技術ごとに分けました。Scratchについては、すでにそれなりにやっている方向けと、初挑戦を含めた初心者向けにさらにルームを分けてみました。もくもくと作業するだけではなく会話も盛り上がり、みなさん非常に満足度が高そうでした(図1)。

オンラインイベントの ツールについて

今回紹介したイベントではどちらもZoomを利用

しました。筆者はシニアプログラミング関係以外でもすでに10回近くオンラインイベントを行っています。その間ツールをいろいろ試しましたが、あくまで現時点ではという条件付きでZoomに落ち着きそうです。Discordは画面共有して話す場合に人数などの制約があり、Google MeetはZoomのブレイクアウトルームのような、少人数に分割して運用する機能がまだありません(2020年6月時点)。

また、Zoomでは字幕をAPI連携で外部ツールと連動できます。国産の音声文字起こしツール「UDトーク」がいち早くこの機能に対応していて便利です。耳が遠い方でも字幕で確認できるようになりますし、単語登録ができるため人名やコミュニティ独自の専門用語のようなほかのツールでは対応が難しい単語にも強いです。今後各種ツールはより発展していくでしょうから、オンラインイベントの今後が楽しみです。

おわりに

シニアプログラミングもくもく会はシニアであってもなくても、プログラミングができててもできなくても参加は大歓迎です。また、本誌読者のような技術力のある方には、ぜひ教える側で参加していただけるとありがたいです。

日本が高齢者大国であることを活用して、高齢者の知見を世界の資産としましょう! SD

▼ 図1 もくもく会の様子

